

VB経営 虎の巻

「志ある人には人が集まる。野心ある人からは人が離れる」。人心ありなしの分かれ目だ。

ある新興企業に自分を高める努力を怠らない人がいる。誰よりも長く働き、熱心に課題に取り組んでいる。その努力が認められ、昨年、まだ30代だが執行役員に登用された。ところが彼をリーダーにした企画はこれまで全て頓挫。周囲が動かない。どうしたものかと社長から相談を受け、この彼を分析してみた。

志と野心の違い



インディゴブルー社長 柴田 励司氏

1985年上智大文学。2008年カルチュア・コンソーシアム・リソース・ビジネス・クラブ(CCC)・コンサルティング(現マーサー)の最高執行責任者(COO)に就任。10年6月から現職。

自分を抑え周囲動かす

芳しくない。会議の場で意気揚々と発言していても、周囲が白けている。それでも彼は場を盛り上げようと生る。自分が中心で野心ある人、周囲の目にはそう映っている。その原因がわかった。彼と一緒には仕事をすると、自分もそのための「駒」にさせられる。ちょっととしたコメントなのだが、明らかにネガティブな要素が含まれていて、人々を動かすには、そのネガティブな要素を最小限に抑え、周囲を動かす必要がある。そのためには、自分自身を「駒」にさせる必要がある。そのためには、自分自身を「駒」にさせる必要がある。そのためには、自分自身を「駒」にさせる必要がある。

ら、自分もどこで何を言われるか分からない。自分を高めたいという意識は大いに結構。向上心なくして成長はない。伸び盛りの新興企業にとっては、むしろ必要な人材だ。しかし、自分の利ばかり追求してはいけない。周囲あっての自分。ここを忘れてはならない。

社長にこのことを伝えたところ、柴田から忠告してやってくれと言った。そこで、その彼を呼び出し、試しさせるような存在になりしに、社内の他の管理職の評価をしてみよう。今は個人的な野心と全体的な人に対する、良い点5%、問題点95%のコメントだった。しかも、大半は、自分と比較して「系」の話。聞いていて気持ちがいいも変わっているか楽しみだ。